

【出題意図】

文章を正しく理解した上で、具体例と関連付け、自分の考えを論理的にかつわかりやすく記述することができるかを問う。

問 1

ICC という国際組織の存在を正しく理解し、現在世界各地で起きている、特にロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ攻撃などについてまずは「知っている」「聞いたことがある」ことが求められる。国際法制度は、主権平等原則を前提とするため、国家が自ら同意しない国際制度に縛られることは基本的には認められない。しかし ICC は、この国家主権を超えて個人の犯罪を裁く力と可能性を持っていることを適切に理解すること。国際問題についての一定程度の知識と課題文の正確な理解が出題の目的である。

問 2

ICC（国際刑事裁判所）が存在し、国家元首を含んだ個人の犯罪を裁く力と可能性が、今日世界で多発している紛争、内戦に対する適切な対応の追求を意味していることを理解する。国際文化学科は、少なくとも現在の時事問題に関心を持っている学生を求めている。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ攻撃、スーダンの内戦、シリア内戦など、連日報道されている紛争について「聞いたことがある」、「知っている」ことを前提として、それらの国際問題に私たちがどのような形で「無関心」を決め込んできたかを問う。「強制力のない無意味な機関だ」「どうせ言っても無駄だ」「国際紛争とはそういうものだ」という冷笑主義、政治的事象への無関心について自らに問い、具体例を挙げつつ複数の選択肢の可能性について論じることができるかを問う。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する。

- ② 課題文を正しく読み取れているか（文章読解能力）。
- ③ 設問に的確に対応した解答をしているか（問題把握能力）。
- ④ 自己の考えを論理的に構造化できているか（論理的思考能力）。
- ⑤ 適切かつわかりやすく表現できているか（文章表現能力）。

【解答例】

問 1

個別の解答となるため解答例は公開しない。

問 2

個別の解答となるため解答例は公開しない。